

## 第8期 日本学術会議会員選挙行事予定表

昭和42年4月6日、日本学術会議中央選挙管理会第33回総会が開かれ、次期会員選挙に関する日程予定が決まった。主な項目は次の通り。

42年4月中旬～6月下旬、現有権者の資格審査に関する予備調査。(研究論文等の発表時期が選挙期日を基準にして9年以内の者のみ原則として選挙権があるので、現有権者の中から選び出すこと、但しこの文の末尾にあるようにある種の人々はこの制限に関係せず選挙権がある。)

7月上旬、本人(上の時期が9年をすぎた者)に照会状発送。

9月上旬、第1次資格審査の結果の確認、第8期選挙諸事項の決定。

9月中旬、学協会、研究機関等に対し、周知、依頼の通知発送。

10月上旬、新規登録カード請求受付。

43年3月31日、新規登録カードの受付締切。

5月中旬、第2次資格審査の確認。

6月下旬、選挙期日官報公示。

7月1～10日、有権者名簿の縦覧。

7月11～25日、立候補届、候補者推薦届受付。

8月8日、有権者名簿確定。

11月25日、投票受付締切(選挙期日)。

12月上旬、当選人決定告知、官報公示。以上

尚同時に議題となった上中宗太郎問題については申立人小野周(東大教養)の主張を認めて、上中氏に対して第7期につづく2回の選挙に関して、選挙権、被選挙権を停止することに決定した。

### 附、有権者の資格審査基準要旨

有権者の資格は次の各項により審査される。

1. 学歴または研究歴—大学卒業後2年、短大・高専(旧高専を含む)等卒業後4年、又は研究歴5年以上。

2. 研究論文または業績報告—主として全文またはその内容を明らかにする概要等が著書として発表されるか又は学会誌、研究機関の機関誌に発表されたものであるが、口頭による発表はその内容が学会誌、機関誌等に掲載発表されて明らかにされたもの。(この場合は当該誌を登録用カードに添えて提出されなければならない。)

3. 研究論文等の発表の時期—選挙期日の前9カ年以内であること。但し、次に掲げる者については9カ年を越えてもさしつかえない。

(1) 国公立大学に勤務する講師以上の教職にある者。(2) 日本学術会議会員および、その職にあった者。日本学士院会員、大学名誉教授。(3) 国公立研究所等の研究機関に研究員として勤務している者。(4) 博士の学位を有し、しかるべき学会に所属する者。

(青木)

## 雑 報

「オリオン領域」の勉強会 3月29日(水)、30日(木)、31日(金)の3日間、東大・理・天文学教室で、星の形成とHII領域の進化についてオリオン領域をテーマに勉強会が行われた。東大の大学院生が計画をして、京大の大学院生数名を加えて、十数名の小人数で行われたが、天文学会から援助を受け、又公開で行われたのが特徴だった。ここ2,3年、研究会・勉強会が沢山開かれるが、参加者が多過ぎると散まんになるといわれる。オリオンの勉強会は、テーマが具体的で直観的だったこともあって主催者は、成功と自画自賛していた。

(蕙)

「地球及び惑星の内部構造の研究会 3月16日(木)、17日(金)、18日(土)の3日間、京大・基礎物理学研究所で、物性論、地質学、天体物理、放射化学、地球物理、地球化学、原子核、水質化学などの各分野の研究者約45名が、太陽系の起源をテーマとして研究会を開いた。ここでは、1966年1月12-15日に行われた第1

回の研究会に提出された問題点及び太陽系生成過程の大きな仮説を背景として、討論された。

まず、太陽が星間物質から重力収縮をして、主系列に達するまでの $10^7$ 年の間に一度 $10^8$ 年間位、現在の明るさの1万倍の明るさに達したことがあるという「Hayashi Phase」の新しい計算結果が発表された。それに対して、隕石の岩石組織に見られるコンドライトなどの複雑な構造から隕石のできた歴史を考えると、次のような過程が推定されるという。即ち隕石は一度 $1300^\circ\text{C}$ 位で熔融し、 $1200^\circ\text{C}$ 位に10年位かけてゆっくりと冷却して珪晶を生じ、更に $1000^\circ\text{C}$ 位に冷えてから破砕されてコンドライトができ、次に集合してその後 $500^\circ\text{C}$ 位に加熱されて変成作用を受けて酸素を逃がし還元析出、そこで再び破砕又集合と進み隕鉄と石質隕石の分離が起って、又破砕されたというように何回も何回も劇的な事件の中に身を委ねたと考えられるという。太陽系の中で彗星は、固体と気体の共存系として、又 $10^8$ - $10^9$ 年の短寿命の天体として、重要なサンプルである。過飽和のガスに包まれた固体微粒子が付着と蒸発の釣合でより大きな固体粒子に成長する条件の計算が行われた。宇

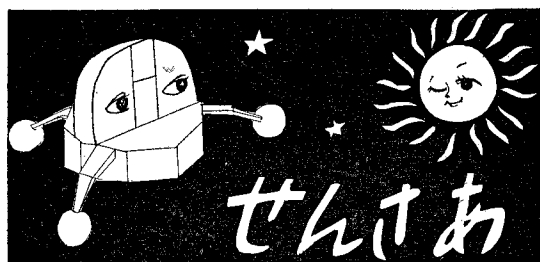
宇宙塵を海底から採取して放射能を測定して、 $10^6$  年の時間尺度の太陽系の歴史を調べる話もあった。地球の年齢が 45 億年であるという根拠についての論争はずっとつづいた。

地球内部の層構造の形成について、核の形成の時期、地球の内部の熱的歴史、化学組成からの地球のモデルの話。又、地球の大気の話、海洋の海水の歴史、地球型惑星の内部の熱的歴史のモデル計算、月面の観察から推定される月の歴史、月面の赤外線観測から推定される月面物質、というように非常に多方面の研究が、非常にゆりい形で、太陽系の起源というテーマで結び合わされていた。太陽系の起源論が、地に足をつけて育ちはじめたといっているのではなからうか。近く「科学」（岩波）誌上で特集が行われ成果が発表される。（蕙）

### 爆発する恒星状電波源？

キットピーク天文台のリンツによると、18 等級の恒星状電波源 PHL 5200 のスペクトルは輝線より短い側に 100 乃至 150Å もある広い吸収帯を示し、通常の輝線をだす源の外側に、およそ 1 万 km/s 位で広がっている層があるらしい。又同定された線の視線速度は 3 つのグループにわかれ、ライマン α を含む速度が系全体の速度を表わすと考えられるが、あとのものをどう解釈したらよいか、まだ明らかでない。とにかくこの PHL 5200 に於ける現象は非常な速度を示し、又恒星状電波源の中でも例外に属するので、何か爆発現象の結果をみていることは確かであろうと彼は結論している。

(Ap. J., 147, 396, 1967) (成相)



ながらも、楽屋裏的存在として表面に出ることもなく、また報われることも少なく長年を過して来た人々の中から選ばれた栄えの 6 名中の 1 人が平さんである。本人は“あたり前のことをして来ただけであり、受賞の知らせを受けてびっくりした”と述懐している。

平さんの功績は緯度観測用の天頂儀を常時整備し、また付属マイクロメーターにミクロン大のくもの糸を縦横 14 本張り渡すという際どい芸当をやったのけ、精度の高い緯度観測を支えて来たとなっている。くもの糸もそこらに見かけるものでは使いものにならないので、山林を歩きまわって越冬用の特殊なくものまゆを採取することから始まるので、並大ていの苦勞ではない。まゆの採取にせよ、くもの糸の張り渡しにせよ、注意深く根気強い人なら、やってやれないことはないが、要はこのように精根を使い果すような細かい、しかも地味な仕事を進んでやるかどうかである。平さんは、進んでこの仕事を引受け、しかも今日までの 40 数年間の毎日を楽しみながら過ごして来たというから、その心構えも人なみではなく、今回受賞の原動力になっていると考えてよい。

大正 12 年、当地の高等小学校を卒業するなり緯度観測所機械工見習として勤務し、お師匠の榊老人に厳しい訓育を受けた。加えて持ち前のきかぬ気から独学を進め、今日では機械工作、電気はいうに及ばず建築、土木その他諸般についてのエキスパートになっている。自分が努力苦勞して成長してきただけに後進の教育にも極めて厳しく、手を取り足をとって教えるということはない。もっと自ら苦勞工夫して身につけよ式であるので、時折不満の声を聞くこともあるが、それは平さん自身の信条であり、それなりに尊いものである。

◆アマチュア天文研究発表会。去る 5 月 14 日（日）、日本天文研究会と川崎天文研究会とが共催で東日本アマ

◆萩原雄祐氏及び池田徹郎氏に叙勲。元東京天文台長萩原雄祐氏にこのほど勲一等瑞宝章が贈られた。またもと緯度観測所長の池田徹郎氏には勲二等瑞宝章が授与された。これは多年にわたる天文学への貢献に対して授与されたものである。

◆末元善三郎東大教授に今年度の学士院賞。末元氏は 1949 年頃よりフレヤーのスペクトルを東京天文台の塔望遠鏡で撮り始め、温度の精密な決定、微細構造の発見等幾多の貢献をしている。また太陽光球についても、ケンブリッジ天文台で行った光球の乱流の研究は多くの文献に引用されている。今回の授賞の対象になったのは直接には彩層の研究であって、高温説低温説に決着をつけて低温説を実証し、更に彩層の乱流速度分布を初めて組織的に研究した。更に自らの考案になる斜入射分光器を南太平洋の日食へ持って行き、見事な閃光スペクトルをとり、先の乱流分布の研究を精密化して、いわゆる彩層の‘Suemoto Model’を提唱するに至った。また、これを星の彩層の研究及び太陽の UV スペクトルの研究へと枠をひろげ、今後の成果も大いに期待される。

◆平三郎氏に吉川英治賞。去る 4 月 11 日、第 1 回吉川英治賞が緯度観測所の平三郎氏に贈られ、私共は心から、おめでとくと申し上げる。選考経過にも明らかのように、日本文化の向上につくし讃えられるべき業績をあげ